

# 古代エジプトにおける言語と教育

サイード・ガービル・ゴハリー\*  
肥後 時尚 訳

## 1 古代エジプトにおける言語

ギザのピラミッド群やツタンカーメンの墓といった古代エジプトの有名な遺跡に加えて、エジプトの乾燥した気候は、その他の歴史的な重要性を持つ多くの遺物を世界の他の場所では見られないほど良い状態で保存し続けてきた。これらの中には、神殿の壁面や、石製の遺物に彫られた碑銘、さらにパピルスや木、麻、そして陶器の破片といった文字資料がある。古代エジプト人は、書き言葉や教育、学習の重要性を十二分に理解しており、また、19世紀におけるヒエログリフの解読は、ナイル川沿いの古代文明の非常に貴重であり、新たな情報の利用を可能にした。

古代エジプトの文字の初期の形は、先王朝時代に遡り、それは土器や象牙、そしてアビドスにある先王朝時代の王たちの副葬品に貼り付けられたラベルの上で見られた。ヒエログリフは、この段階では様々な埋葬道具が副葬された品物の中身を指し示した、単なる記号であった<sup>1</sup>。

ナルメルのパレットは、彫られた場面から、古代エジプトの初期の歴史資料と考えられているが、その歴史的な記録は、主にパレットの両面に彫られた場面から推測される。ただし、遺物上のほんのわずかなヒエログリフは、セレク（王の宮殿の外見を表した長方形）の中に書かれた王の名前のみを示している<sup>2</sup>。単純な文章は、この時から発展し始めた。単語のまとまりの最初の例は、デン王のサンダル・ラベルの上に見られ、それは現在、大英博物館にあり、そこではラベルの右側にある記号は「東方を打つ最初の時」と訳されている<sup>3</sup>。

古代エジプト語は、4,000年間の古代文明の中で発展した、3種類の書体で書かれた。初期のものは、先王朝時代から古王国時代にかけて発展したヒエログリフの書体である。続き書きのヒエラティック書体は、それよりわずか後に現れ、より続け書きの傾向が強くなった形をとるデモティックは、紀元前700年頃から使用されていた。古王国時代以降、徐々にヒエログリフは、神殿や墓の壁に彫られる歴史的、宗教的な文字として用いられ、ヒエラティックは、パピルスや陶器の破片、そして他の材料に書かれた宗教文書と同様に、仕事での記録や、記録の保持、文書日常生活に関する資料に用いられた。デモティックとして知られる、

---

\* カイロ大学考古学部エジプト学科

(Department of Egyptology, Faculty of Archaeology, Cairo University, Egypt)

1 G. Dreyer, *Umm el-Qaab I, Das prädynastische Königsgrab U-j und seine frühen Schriftzeugnisse*, AV 86 (Mainz, 1998); D. B. Redford ed., 'Scripts' in *The Oxford Encyclopedia of Ancient Egypt* (American University in Cairo Press, 2001), Vol. 3, p. 192 ff.; V. Davies, *Egyptian Hieroglyphs* (London, 1987).

2 M. Saleh and H. Sourouzian, *The Egyptian Museum Cairo: Official Catalogue* (Mainz, 1987), No. 8; T. Wilkinson, *Early Dynastic Egypt* (London, 2001), p. 3, and see Index, p. 408.

3 A. J. Spencer, *Early Egypt: The Rise of Civilisation in the Nile Valley* (London, 1993), p. 89 and Fig. 67.

字義どおりに「民衆の（文字）」を意味する極端に続け書きの書体は、紀元前7世紀以降、ヒエラティックに大幅にとって代わった<sup>4</sup>。

古代エジプト語の最後の段階にあたるコプティックは、ギリシア文字に7つの文字を追加して書かれ、その最も早い事例は、紀元後1世紀に遡る<sup>5</sup>。

1779年、エジプト北部、ロゼッタのサン・ジュリアンの要塞都市への修復を行っていたナポレオン軍の将校によるロゼッタ・ストーンの見発は、古代エジプトのヒエログリフを解読するための探求における転機となった<sup>6</sup>。ロゼッタ・ストーンは、花崗閃緑岩の石碑の一部であり、それは紀元前196年、プトレマイオス5世の戴冠時に公布された、聖職者に対する特定の特権の承諾に関係する布告であり、いわゆる「メンフィス勅令」の写しをその上に刻んでいた<sup>7</sup>。石碑は本来、サイス（現在のサ・エル・ハガル）に位置するネイト女神の神殿に置かれていた可能性があり、マムルーク朝のスルタン、カイトベイ（1468-1495）の要塞の建造に再利用され、それは、フランス人によってサン・ジュリアン要塞と再び名づけられた。そしてそれは、ロゼッタ（現在のラシード）の街の近くにあったのである。この石の真価は、文字が、3種類の文字と2種類の言語で刻まれているという事実にある。1つ目と2つ目の書体は、古代エジプト語のヒエログリフとデモティックで刻まれており、一方で3つ目のものはギリシア語とギリシア文字で書かれており、そしてそれらは、学者たちが布告の言葉遣いを獲得することを可能にし、また、他の2種類の文字で書かれた記号のグループの比較対照のための重要な手段を提供した。

中世以降、様々な国の研究者がヒエログリフの説明と翻訳を試みてきたが、その時まで、その古代の言語とそれが書かれた文字の基本原理は失われていた<sup>8</sup>。ヒエログリフの解読に導いた最も徹底的な研究は、19世紀初頭にイギリスの自然科学者、トマス・ヤングとフランス人研究者、ジャン・フランソワ・シャンポリオンによって始められた<sup>9</sup>。シャンポリオンは、一般にその解読に成功したと信じられているが、ヤングは、シャンポリオンと共有した多くの重要な研究を行っていた。しかし一方で、ヤングは彼が携わる科学的な他の関心を多く持ったのに対して、シャンポリオンはエジプトのヒエログリフの理解にのみ専念し、そしてヒエログリフの文字が表音記号と表意記号を含んでいることを正確に特定した最初の学者となった。彼は、彼の発見を1882年、パリの Académie des Inscriptions et Belles-Lettres でなされた講義の中で発表した<sup>10</sup>。

解読は、すでに文字が判明していたギリシア語のバージョンと、記号やそのまとまりの位置の比較を基礎に置いていた。プトレマイオスのカルトウーシュは文章中に数回見出され、そして、これと、フィラエ島のオベリスクの基盤の碑文の中にある王家のカルトウーシュの比較は、2つの名前が p, o, t, e, そして a の文字を共有していたため、クレオパトラ（この場合においては、プトレマイオス8世の妻）、のカルトウーシュが研究の対象となった。その後も熱心な研究が続けられ、他の2言語の文書やヒエログリフの碑文との

---

4 Redford ed., *The Oxford Encyclopedia of Ancient Egypt*, Vol. 3, p. 192 ff.: S. Quirke and J. Spencer, *The British Museum Book of Ancient Egypt* (London, 1992), pp. 118-147.

5 Quirke and Spencer, *British Museum Book of Ancient Egypt*, pp. 120-121, pp.124-5 and Fig. 98; Redford ed., *The Oxford Encyclopedia of Ancient Egypt*, Vol. 3, p. 195.

6 R. Parkinson, *The Rosetta Stone* (London, 2005).

7 Parkinson, *Rosetta Stone*, pp. 57-60.

8 Quirke and Spencer, *British Museum Book of Ancient Egypt*, p. 124.

9 Parkinson, *Rosetta Stone*, pp. 33-46; L. and R. Adkins, *The Keys of Egypt* (London, 2001).

10 Parkinson, *Rosetta Stone*, p. 43.

比較が、シャンポリオンの研究の仮説が正しいことを実証した<sup>11</sup>。

22のエジプトのヒエログリフのアルファベットが確立され、それは、1文字を表す記号から成るが、他にも、2文字を表す2子音の記号や、3文字を表す3子音の記号もあった。他のセム語系の言語と共通して、古代エジプト人は、完全な母音を書かなかった<sup>12</sup>。単語の最後には、単語の意味を指し示した決定詞、もしくは表意文字があり、それは異なる意味を持った語が、同じ記号で書かれる場合に特に便利であった<sup>13</sup>。

ヒエログリフは、左から右、右から左、そして上から下へと書かれうる（まれに下から上にもある）が、ヒエラティックとデモティックは、通常、水平に、そして常に右から左へと書かれた<sup>14</sup>。

古代エジプト語の文法は、動詞、名詞、形容詞、副詞、単数形、複数形、男性形、女性形、動詞の時制などといった、現代の言語に見られる多くの言語の要素から成る。文中の基本的な語順は、動詞—主語—目的語、あるいは動詞—主語—前置詞—名詞であった<sup>15</sup>。

数詞は、9までの数が、その分だけストロークまたは指で書かれ、10、100、1,000、10,000、100,000、1,000,000といった数は、特定の記号で書かれ、その記号は必要とされる量に応じて繰り返される<sup>16</sup>。

古王国時代以降、王や女王の名前は、今日「カルトウーシュ」として知られる長円形の中に書かれた。その形は、ヒエログリフの[*sn*]「囲むこと」（縄の輪）の語に由来し、それは王が「太陽が取り囲む全てのもの」の支配者であることを指し示している。もし王の名前が、ツタンカーメンや、ラメセスのように、神の名前を含んでいれば、その神の名前は常にカルトウーシュの中で最初に書かれた<sup>17</sup>。

その他の基準を通して、水平もしくは垂直の碑文の列が、一緒に配列された暫定的な組み合わせの集まりで確認することができるため、近年、ヒエログリフの碑文は古代の墓や神殿の破損した壁の修復において便利な道具と成り得る。

## 2 古代エジプトにおける教育

古代エジプト人は、教育を高く評価し、それは、行政職や神官、あるいは軍隊における出世のはしごに乗る最初の段階であった。様々な時代の重要な役人の像の多くは、あぐらをかき、膝の上にパピルスの巻物を持ち座った書記として表されている<sup>18</sup>。

書記の基本的な装備品は、筆箱と赤と黒のインク、そして葦ペンのセットであった。インクは、赤黄土や煤の粉末から作られた。文章は通常、黒で書かれ、赤のインクは時には、テキストの最初と最後において、

11 Parkinson, *Rosetta Stone*, p. 36 ff.; Adkins, *The Keys of Egypt*, 173 ff.

12 A. H. Gardiner, *Egyptian Grammar*, 3rd edition (Oxford, 1969), p. 9 and p. 27 ff.; J. P. Allen, *Middle Egyptian* (Cambridge, 2000), pp. 14-17 and pp. 23-34.

13 Gardiner, *Egyptian Grammar*, pp. 30-34; Allen, *Middle Egyptian*, p. 3 and p. 28.

14 Gardiner, *Egyptian Grammar*, p. 25; Allen, *Middle Egyptian*, pp. 3-5.

15 Gardiner, *Egyptian Grammar*; Allen, *Middle Egyptian*; M. Collier and B. Manley, *How To Read Hieroglyphs*, (London, 1998); R. O. Faulkner, *A Concise Dictionary of Middle Egyptian* (Oxford, 1962).

16 Gardiner, *Egyptian Grammar*, p. 191 ff.

17 Gardiner, *Egyptian Grammar*, p. 74.

18 'Education' in Redford ed., *The Oxford Encyclopedia of Ancient Egypt*, Vol. 1, p. 438 ff.; J. J. and R. M. Janssen, *Growing Up in Ancient Egypt* (London, 1990).

冒頭と結末の語のために、あるいは句読点の代わりに使用され、そして時には修正用に使用された<sup>19</sup>。

石造遺物や墓や神殿の壁に彫られた文字は別として、日常の書類は、パピルス、陶片（陶器の破片もしくは、石灰岩の石片）、木、そしてリネンの上に書かれた。パピルスは高価であったため、それは王家の独占品であった<sup>20</sup>。したがって、日常の、もしくは仕事の業務に関する多くの書類は、陶片に書かれた<sup>21</sup>。職人もまた、墓や神殿の装飾の中に彫る、もしくは描くためにそれらを使用し、学校の生徒は、文章の筆写、数学的計算をし、他の授業に用いた。木の筆記用板はしばしば石膏の層で覆われており、それはまた、学校の子供たちに使用され、多くの古代エジプトの民俗説話が、古代の所有者に捨てられた筆記用板に現存している<sup>22</sup>。

授業は書き取りや筆写を含み、ヒエラティックの書体は、明らかに生徒が教わる最初の文字の書体であった。実際には、神殿や職人の学校の生徒のみが、より精巧なヒエログリフの書体を学ぶことができた<sup>23</sup>。紀元前1200年頃に遡り、トロントのロイヤル・オンタリオ博物館にある宰相カイへの手紙<sup>24</sup>や、現在、ロンドンの大英博物館にあるパピルス・ランシングやパピルス・アナスタシ<sup>25</sup>は、練習のために生徒が筆写した多くのテキストを現存している。数学と幾何学もまた、重要な科目であり、それらは特に計算と建築学にとって重要であった。大英博物館にある最も貴重なエジプトのパピルスの1つは、紀元前約1540年頃のものとして知られるリンド数学パピルスであり、それは、角錐台形（先を切られたピラミッドの形）の大きさを計算する方法を含めた、様々な数学と計算の問題を含んでいる<sup>26</sup>。歴史と宗教は、地理や外国語と同様に、行政職や外交の仕事に入ることを望む生徒のために教えられた<sup>27</sup>。

特定のテキストは、明らかに教科書や教材として使用された。「要約」のようなものを意味するケミトは、中王国時代の初期に編纂され、その中に手紙を書く時に使用される形式的な挨拶や文学形式の例としての物語、そして理想的な自叙伝の中で一般に用いられる言い回しを含んでいた<sup>28</sup>。固有名詞のリスト、もしくは語のリストもまた教育目的のために用いられ、そして、これらのいくつかの例は、中王国時代以降も残っている。そのリストは、植物の名前、鳥、動物、様々な食べ物と飲み物、人体の部分、建物、農業用の土地、兵士の装備品、エジプトの町、シリア、パレスチナの地形、海外に固有な名前とエジプトの王の名前を含む、テーマの幅広い範囲を取り扱っていた<sup>29</sup>。

実際の学校の証拠は、明らかになっていない。王家の王子は、家庭教師、あるいは一連の指導者たちによって、おそらく兄弟、そしてまた「王家の仲間」として知られる他の少年たちとともに教育された<sup>30</sup>。裕福な

---

19 Quirke and Spencer, *British Museum Book of Ancient Egypt*, p. 123.

20 J. Černý, *Paper and Books in Ancient Egypt* (London, 1947).

21 Quirke and Spencer, *British Museum Book of Ancient Egypt*, p. 123; Redford ed., *The Oxford Encyclopedia of Ancient Egypt*, Vol. 3, p. 188.

22 Quirke and Spencer, *British Museum Book of Ancient Egypt*, p. 123 and Fig. 106.

23 Redford ed., *The Oxford Encyclopedia of Ancient Egypt*, Vol. 1, p. 439, and Vol. 3, p. 208.

24 A. H. Gardiner, *Theban Ostraca*, Part 1 (Toronto, 1913).

25 A. H. Gardiner, *Late Egyptian Miscellanies* (Brussels, 1937); R. A. Caminos, *Late Egyptian Miscellanies* (London, 1954); M. Lichtheim, *Ancient Egyptian Literature*, Vol. 2 (Berkeley, 1976).

26 G. Robins and C. Shute, *The Rhind Mathematical Papyrus* (London, 1987).

27 Redford ed., *The Oxford Encyclopedia of Ancient Egypt*, Vol. 1, p. 440.

28 Redford ed., *The Oxford Encyclopedia of Ancient Egypt*, Vol. 2, pp. 226-227.

29 Redford ed., *The Oxford Encyclopedia of Ancient Egypt*, Vol. 2, p. 605.

30 Janssen, *Growing Up in Ancient Egypt*, p. 70 and p. 125 ff.

貴族もまた、彼らの子供の家庭教師を持っていたようであり、そしてテキストは、親族、知人、そして雇業者の息子でさえ、見込みのある者であれば、貴族の息子と共に教育を受ける機会が与えられることになってきたことを示している<sup>31</sup>。

神殿の中には、おそらく、神官職、そして軍隊の少年たちを養育するための学校があり、デル・エル・メディーナの村で発見された証拠によると、職人たちの村にも学校があったため、絵描きや彫り師は、彼らが彫り、描く文字を理解することができた<sup>32</sup>。

学生の勉学に満足できない教師によって、時折、罰が学生に明らかに与えられており、そのため生徒たちによって写された練習の事例が多く残っている。そこでのテーマにされていたのは、科目を学ぶ中での怠惰に対する身体的な罰の適用であった。これらの練習は、したがって、生徒に彼の科目を学び、熱心に専念することを促進するように意図された。そうしなければ、彼は以下のテキストの生徒のように罰を受けたのであろう<sup>33</sup>。

「怠惰であるな、そして楽しみを考えるな、さもなければ、あなたはものにならないであろう。手を使って書き、口を使って読み、あなたよりよく知る者たちから助言を得よ…少年の耳は彼の背にあり、彼はその鼓動を聴く<sup>34</sup>。」

「私の心は助言を与えるばかりでうんざりしている。たとえ私が100の息吹をあなたに与えても、あなたはそれらを全て無視する。しかし私は、いつかあなたを一人前の男にする。あなたは悪い少年だ<sup>35</sup>。」

どの程度まで女性が教育され、読み書きができたかは知られていない。王家の王女が彼らの兄弟とともに読み書きを学んだことは考えられるが、女王や王女によって書かれたと伝えられている全ての手紙、または書類が、実際には書記、あるいは王宮の役人によって書かれたことも同じように考えられる。女性が教育を受けていたと思われる事例も少数あるが、これらは通例というよりむしろ例外である<sup>36</sup>。

女性たちは読み書きができたかもしれないが、織りものを含めた、家庭内の技術を学んでおり、それらは王家の召使いの女性たちによって担われていた。他の技術は、理髪や音楽、そして踊りであった。古代エジプトの墓の中に、夫を楽しませるためにハープを弾いている、墓の所有者の妻の事例がいくつかある。音楽の技能は、身分の低い女性によって商業的な目的で使用された。男性と女性の踊り子と演奏家の一団の双方が、王家の宮殿や、貴族の邸宅の職員に雇われた<sup>37</sup>。

31 Janssen, *Growing Up in Ancient Egypt*, p. 67 ff.

32 Redford ed., *The Oxford Encyclopedia of Ancient Egypt*, Vol. 1, pp. 441-442; Janssen, *Growing Up in Ancient Egypt*, p. 68 ff; A. G. McDowell, *Village Life in Ancient Egypt*, pp. 127-164.

33 Lichtheim, *Ancient Egyptian Literature*, Vol. 2, p. 167 ff.

34 Papyrus Anastasi III, 3, 9 ff.; A. Erman, *The Ancient Egyptians: A Sourcebook of their Writings* (London, 1978), p. 189; W. K. Simpson, *The Literature of Ancient Egypt* (Yale University, 1972), p. 344.

35 Papyrus Sallier I, 7, 9 ff.; Erman, *The Ancient Egyptians*, p. 190.

36 "Literacy" in Redford ed., *The Oxford Encyclopedia of Ancient Egypt*, Vol. 2, pp. 297-299; G. Robins, *Women in Ancient Egypt*, pp. 111-114.

37 J. Tyldesley, *Daughters of Isis: Women of Ancient Egypt*, pp. 114-121; Robins, *Women in Ancient Egypt*, pp. 92-110.

## Seminar on Egyptology and Monuments

古代エジプト人が学習と教育に重要性を認めていた十分な証拠はあるものの、さらなる発見と、とりわけ、未だ読まれていないテキストや碑文の翻訳は、間違いなく彼らの生活の極めて重要なこの側面のより多くの詳細を明らかにするであろう。

“Language and Education in Ancient Egypt” was translated by Tokihisa HIGO.